

電気設備業者が

高校で実践授業

渋川

県電気工事工業組合（小谷野一彦理事長）は20日、渋川工業高で電気設備工事

に関する実践授業を開き、電気科の1年生40人に現場での作業について教えた。

同組合は、工業界で活躍する人材育成のため、県内各地の学校で授業を開いている。

した石井阜太さんは「想像よりも力の要る仕事だと感じた。てこの原理を利用し、手や

組合員が講師と

なり、電気回路の仕組みやケーブルの接続方法などを指導した。ケーブルの表面をナイフで削る際は、刃を外側に向けて作業するなど安全な方法を丁寧に説明した。生徒は大きな

工具を使って、配管用の金属パイプを曲げる体験をした。

初めてパイプを曲げる作業を経験



組合員に教わりながら作業する生徒